

各関係機関団体の長
各病虫害防除員

} 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和5年度病虫害発生予察技術報第4号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第4号を発表したので送付します。

県内3地点に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップのうち2地点で、平年より誘殺数が多くなっています。また、県全域において、大豆におけるハスモンヨトウの発生が増加傾向で、イチゴやナスでも多発ほ場が見られます。

今後も発生に好適な気象条件が続くと予想され、冬春キャベツ等の定植(播種)時期でもあるため、ほ場の発生に注意し防除の徹底をお願いします。

技術情報第4号

1 対象作物名：大豆・野菜類

2 病虫害名：ハスモンヨトウ

3 発生状況

- (1) 9月1半旬以降、筑後市、行橋市においてハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年より増加している(図1)。特に筑後市では、9月5半旬において平年より非常に多くなっている。
- (2) 大豆の9月5半旬調査の結果では、ハスモンヨトウの10株当たり払い落とし幼虫数は6.7頭(平年6.2頭)(図2)、発生ほ場率91.7%(平年61.4%)で、8月5半旬から増加傾向である。また、白変葉の発生株率は34.3%(平年1.4%)(図3)、発生ほ場率は83.3%(平年43.1%)で、平年より多発していた。
- (3) イチゴ、ナスの9月5半旬調査では、ハスモンヨトウの多発ほ場が確認された。

4 防除上注意すべき事項

- ア ほ場周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。
- イ 中齢幼虫になると薬剤の効果が低下するため、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに薬剤防除を実施する。
- ウ フェロモントラップを活用した防除適期の目安は、誘殺ピークから10日目頃であるが、地域によって誘殺消長に差があるため、ほ場でのハスモンヨトウや白変葉、食害株等の発生状況を確認し、薬剤防除を実施する。
- エ 今後の発生状況については、病虫害防除所のホームページを参照する。
<<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html>>
- オ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布する。
- カ 施設栽培の場合は、ハウスの開口部に防虫ネットを張り、成虫の飛び込みを防止する。

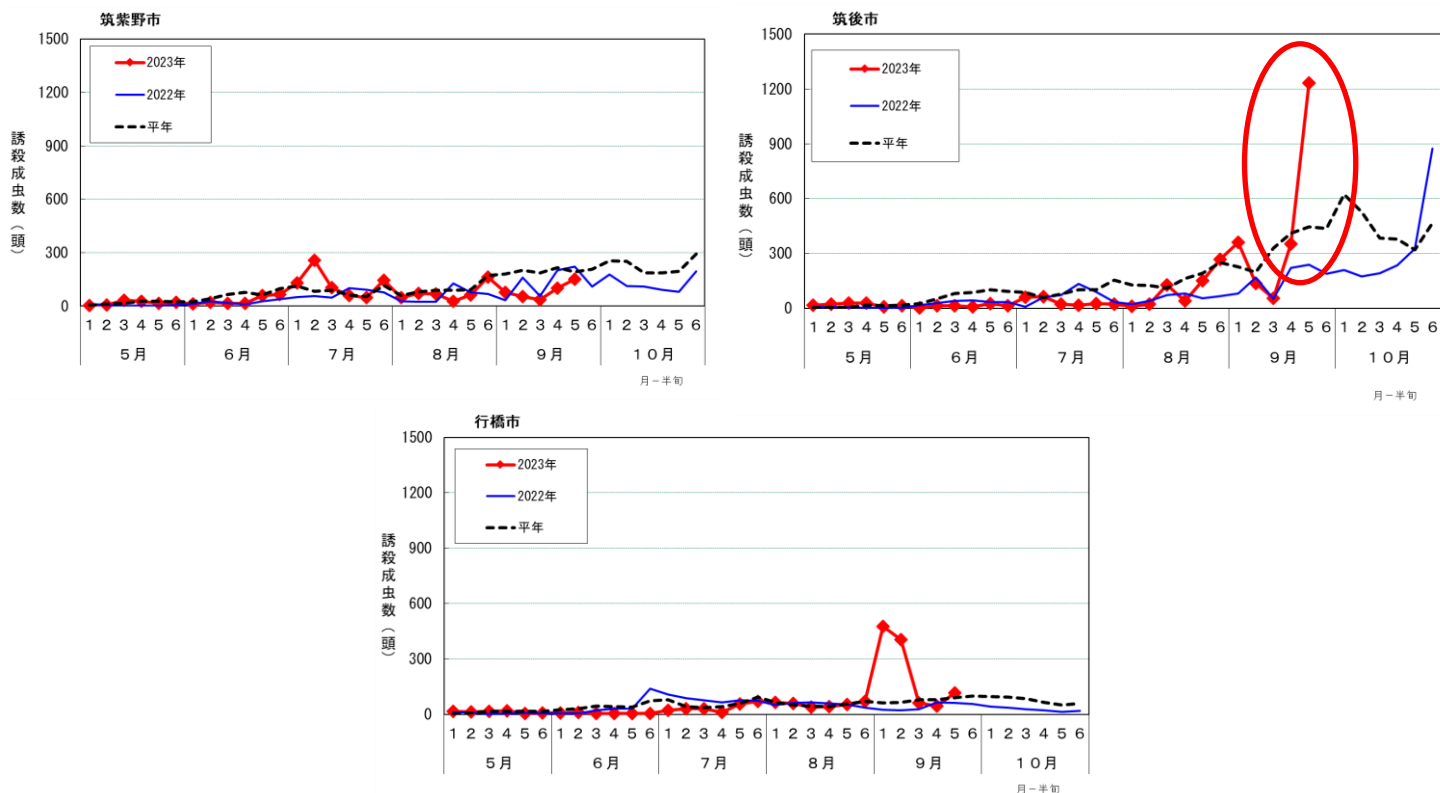


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺成虫数の推移

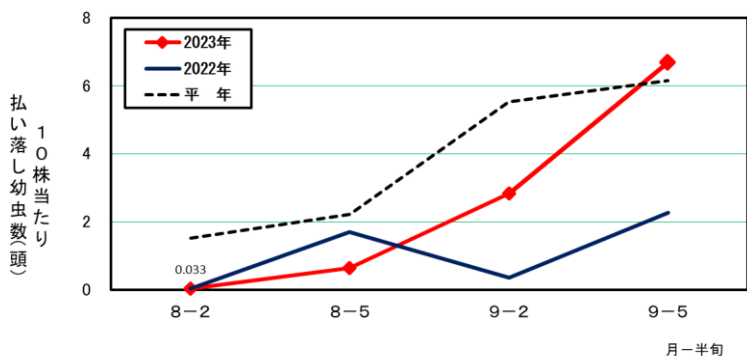


図2 大豆におけるハスモンヨトウ幼虫発生密度の推移

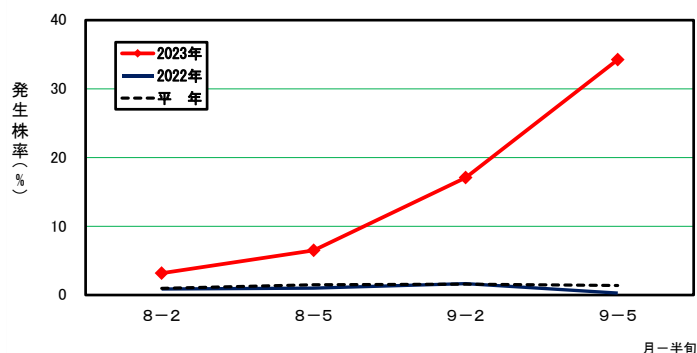


図3 大豆における白変葉発生株率の推移

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①

○X (旧 Twitter) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

X (旧 Twitter) の本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②



最新の病害虫発生状況

